

はじめに

著者	遅野井 茂雄
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	アジアを見る眼
シリーズ番号	91
雑誌名	現代ペルーとフジモリ政権
ページ	iii-vi
発行年	1995
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00017764

はじめに

「ペルーは、それ自体がニュースである」といわれるが、たしかにペルー現代史の歩みは激しく、われわれを退屈させないものがある。なかでも、アルベルト・フジモリの大統領当選にまさる事件はないだろう。

白人でも先住民でも、その混血でもない日系人という超少数民族（総人口の〇・四％）出身の大統領誕生という事実は、コロンブスの新大陸到達五〇〇年（一九九二年）を前にした歴史のあまりに皮肉なめぐり合わせといふべきである。インカ文明の中心地で、三世紀にわたるスペイン植民地支配の牙城であつて、土着文化と植民地支配の影響を最も強くとどめてきた国で珍事が発生したのである。

フジモリ政権は、あくまでもペルー現代史の分脈のなかに位置づけることによって、正しく

理解できよう。第一義的にペルー史に拘束されるというべきであつて、それと無縁なところで勝手な虚像をつくり、これを褒貶したり評価するのは慎むべきである。

とはいえ日系人大統領の誕生は、ペルーやアメリカ大陸諸国が移住者から成っている国であることを改めて確認させ、そのなかで日本人も無縁ではありえないという現実をわれわれに示したといえる。現地の週刊誌『カレタス』は、コロンブスが、望遠鏡に映る先住民に扮したフジモリの姿をみて、やはりジパングに着いたと納得するパロディーで、コロンブス五〇〇年記念号の表紙を飾っている。

世界で初の日系人大統領の誕生は、日本人にとって海外にいる同胞の快挙として一大フィーバーを巻き起こす大事件であり、日本人の深層に潜むある種のナシヨナリズムをくすぐる出来事であつた。日本が経済的成功をおさめ、新たな国際的役割を模索しようとしたとき、日系人を大統領に選び、日本の援助を素朴に期待する国が出現したのである。その意味でフジモリ政権に対する援助は「経済大国日本」の試金石といえたが、就任一年後に起きた日本人農業専門家三名の殺害事件は、腰の座った援助を行なうことがはたして可能かという問いを、われわれに突きつけることとなつた。

さらに衝撃を与えたのは、一九九二年四月五日、軍の支援を得て決行された国会閉鎖、憲法の一部停止、いわゆる大統領の「自主クーデター」である。「真の民主主義を樹立すること」

を目的に行なわれた制度的民主主義の中断であったが、この強権発動は、経済恐慌とテロにあえぎ、社会不安のなかで沈没しつつある途上国で、国家再建を民主主義のもとで行なうことがいかに困難かを示す事件であった。それは、経済発展や経済転換と、民主主義がはたして両立しうるのかという根本問題、その間に横たわる緊張関係やパラドックスの存在を鋭く照らし出したといつてよいだろう。またこの事件は、民主化を軸に進む冷戦後のグローバルな国際環境との緊張に満ちた関係をはらむものでもあった。

ペルーといえは従来、考古学や人類学の角度から紹介されることが多く、日本人にとってインカ帝国やアンデス文明でしか馴染みのなかった国である。フジモリ・フィーバーは、その国の現代の政治や経済に関心を呼び起こしたという点からしても特筆すべき出来事である。厳しい国内情勢と、それに立ち向かう日系人大統領の挙動や政策が注目され、そしてそれを積極的支援すべきであるという国民合意が形成され、学校建設などに市民の支援の輪が広がってきたのである。

しかし現代ペルーのかかえる苦難は、いまだ大きいといわざるをえない。フジモリ政権の下で経済の安定化と市場経済化に向けた改革が徹底して進められ、経済回復への道筋がつけられた。治安情勢が好転し、投資が戻り、新しい政治経済環境のもとで変貌を遂げようとしている。しかしペルーはいまだ病める国である。貧困、文化的民族的衝突、伝統的な政治・社会制度の

解体と混沌、麻薬問題の存在がある。その克服のためには、自助によるたゆまぬ努力と、外国からの強力な支援が必要である。日系人大統領の前に横たわるペルーの難問の核心はなにか、それにフジモリ政権がどう取り組み、いかなる課題を残しているのか。

本書は、まずペルーの基本問題を探り、第二次大戦後に生じた激しい政治社会変動を軸にペルー現代史をたどり、そのなかにフジモリ政権を位置づける。そして、改革の現状を評価し、将来の可能性を展望することを主眼としている。